

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2000-270080
(P2000-270080A)

(43) 公開日 平成12年9月29日 (2000.9.29)

(51) Int.Cl.	識別記号	F I	テーマコード(参考)
H 0 4 M 1/274		H 0 4 M 1/274	5 K 0 2 7
H 0 4 Q 7/38		1/72	B 5 K 0 3 6
H 0 4 M 1/72		11/00	3 0 3 5 K 0 6 7
11/00	3 0 3	H 0 4 B 7/26	1 0 9 T 5 K 1 0 1
			1 0 9 M
審査請求 未請求 請求項の数 7 O L (全 4 頁)			

(21) 出願番号 特願平11-69061

(22) 出願日 平成11年3月15日 (1999.3.15)

(71) 出願人 000003595

株式会社ケンウッド

東京都渋谷区道玄坂1丁目14番6号

(72) 発明者 山下 啓二

東京都渋谷区道玄坂1丁目14番6号 株式会社ケンウッド内

(74) 代理人 100086368

弁理士 萩原 誠

Fターム(参考) 5K027 AA11 FF22

5K036 AA07 DD01 DD11 DD16 JJ02

JJ03 JJ13

5K067 AA34 BB04 DD13 FF07 FF23

GG01 HH13 HH22 HH23 KK15

5K101 KK20 LL12

(54) 【発明の名称】 移動体通信端末

(57) 【要約】

【課題】 ユーザに非常に便利であり、メモリーの節約にもなる移動体通信端末を提供すること。

【解決手段】 電話帳の各相手先登録部31に電話番号に加えてEメールアドレスを登録可能とする。

名 前
電話番号
Eメールアドレス

31

【特許請求の範囲】

【請求項1】 電話帳の各相手先登録部に電話番号に加えてEメールアドレスを登録可能なことを特徴とする移動体通信端末。

【請求項2】 電話帳の各相手先登録部に電話番号に加えてEメールアドレスを登録可能であり、Eメール作成後のアドレス入力画面から電話帳が起動された場合には、Eメールアドレスが登録された相手先登録部の内容のみを次々表示部に表示させることを特徴とする移動体通信端末。

【請求項3】 アドレス帳の各送信先登録部にEメールアドレスに加えて電話番号を登録可能なことを特徴とする移動体通信端末。

【請求項4】 アドレス帳の各送信先登録部にEメールアドレスに加えて電話番号を登録可能であり、電話時にアドレス帳が起動された場合には、電話番号が登録された送信先登録部の内容のみを次々表示部に表示させることを特徴とする移動体通信端末。

【請求項5】 電話帳またはアドレス帳の検索時、各登録部の電話番号およびEメールアドレスはキー操作で切り替えて表示部に表示されることを特徴とする請求項1または3に記載の移動体通信端末。

【請求項6】 表示部に表示された電話番号またはEメールアドレスは、キー操作により発信することができることを特徴とする請求項5に記載の移動体通信端末。

【請求項7】 電話帳またはアドレス帳の検索時、各登録部の電話番号およびEメールアドレスは同時に表示部に表示されることを特徴とする請求項1または3に記載の移動体通信端末。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、PHS（パーソナルハンディフォンシステム）端末や携帯電話機端末などの移動体通信端末に関する。

【0002】

【従来の技術】PHS端末や携帯電話機端末などの移動体通信端末においては、相手先電話番号の登録部として電話帳を備える。図7に示すように、電話帳の各相手先登録部41には、相手先の名前と電話番号41aが登録される。

【0003】最近、移動体通信端末においてはEメール通信が可能となっている。そこで、移動体通信端末には、前記図7に示すように、アドレス帳も設けられる。このアドレス帳の各送信先登録部42には、Eメールの送信先の名前とEメールアドレス41bが登録される。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかし、従来の移動体通信端末では、前記のように電話帳とアドレス帳が別々で、名前なども電話帳の相手先登録部41とアドレス帳の送信先登録部42に別々に登録する必要があり煩わし

かった。

【0005】本発明は上記の点に鑑みなされたもので、ユーザに非常に便利であり、メモリーの節約にもなる移動体通信端末を提供することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】本発明の第1の移動体通信端末は、電話帳の各相手先登録部に電話番号に加えてEメールアドレスを登録可能なことを特徴とする。

【0007】本発明の第2の移動体通信端末は、電話帳の各相手先登録部に電話番号に加えてEメールアドレスを登録可能であり、Eメール作成後のアドレス入力画面から電話帳が起動された場合には、Eメールアドレスが登録された相手先登録部の内容のみを次々表示部に表示させることを特徴とする。

【0008】本発明の第3の移動体通信端末は、アドレス帳の各送信先登録部にEメールアドレスに加えて電話番号を登録可能なことを特徴とする。

【0009】本発明の第4の移動体通信端末は、アドレス帳の各送信先登録部にEメールアドレスに加えて電話番号を登録可能であり、電話時にアドレス帳が起動された場合には、電話番号が登録された送信先登録部の内容のみを次々表示部に表示させることを特徴とする。

【0010】第1または第3の移動体通信端末において、電話帳またはアドレス帳の検索時、各登録部の電話番号およびEメールアドレスはキー操作で切り替えて表示部に表示させることができる。あるいは、電話帳またはアドレス帳の検索時、各登録部の電話番号およびEメールアドレスは同時に表示部に表示させることができる。表示部に表示された電話番号またはEメールアドレスは、キー操作により発信することができる。

【0011】

【発明の実施の形態】次に添付図面を参照して本発明の実施の形態を詳細に説明する。図6は本発明の実施の形態としての移動体通信端末を示すブロック図である。この図における送受信回路部11はマイクロコンピュータ12により制御されて、音声やEメールなどの送受信動作を行う。マイクロコンピュータ12には音声処理部13を介してスピーカ14とマイク15が接続され、前記送受信回路部11によりアンテナ16を介して送信される音声信号はマイク15から入力される。一方、アンテナ16と送受信回路部11で受信され復調された音声信号はスピーカ14で再生される。前記マイクロコンピュータ12はROM17に書かれたプログラムと、操作キー18および送受信回路部11からの信号ならびに一時記憶メモリとしてのRAM19からの情報に従い動作し、送受信回路部11、LCDドライバ20およびバイプレータ23を制御する。また、RAM19には、マイクロコンピュータ12により各種の情報が記憶される。一例としてRAM19には、電話帳としての情報が登録（記憶）される。このRAM19およびROM17はマ

マイクロコンピュータ12に内蔵されていても、あるいは外付けであっても良い。LCDドライバ20はマイクロコンピュータ12により制御され、フォントROM21の任意のフォントをLCD22の指定した場所に表示させる。パイプライン23はマイクロコンピュータ12により制御され、着信を振動で報知する。

【0012】上記のように構成された移動体通信端末においては、RAM19を登録部として電話帳を備え、図1に示すように、電話帳の各相手先登録部31には、相手先の名前、電話番号に加えて、Eメールアドレスを登録できる。

【0013】この登録動作の手順を詳述すると、次の通りである。まず、操作キー18を操作して名前を入力モードとする。すると、LCD(表示部)22の画面は図2(a)のようになる。次に、操作キー18を操作して名前を入力する。このとき、名前は「ひらがな」、「カタカナ」、「英字」、「数字」で入力できるが、かな漢字変換を利用すれば、図2(b)に示すように名前(例えば日本一郎)を漢字で入力できる。次に、操作キー18を操作して第1電話番号入力モードとする。すると、LCD22の画面は図2(c)のようになり、ここで、電話番号を入力すると、最下行に電話番号(例えば070...)が表示される。

【0014】電話番号を入力したら、操作キー18中のセットキーを操作し、続けてLCD22の画面から例えば上下送りキーでEメールアドレス入力モードを選択する。このとき、上下送りキーにより、Eメールアドレス入力モードに代えて第2電話番号入力モード、グループ入力モード等を選択することもできる。

【0015】Eメールアドレス入力モードを選択すると、LCD22の画面には図2(d)に示すように「アドレス」の文字が表示される。その後、数字キー、*キー、#キーを使用して図2(e)に示すようにEメールアドレス32を入力する。

【0016】その後は、操作キー18中のセットキーを操作することにより登録完了となり、上下送りキーおよびセットキーの操作で「次の登録」あるいは「終了」を選択できる。

【0017】上記のようにしてRAM19に登録された内容は、電話時あるいはEメール送信時に検索され、LCD22に表示される。そのとき、図3に示すように、各相手先毎に、電話番号33とEメールアドレス34を操作キー18の1回の操作で切替えて表示することができる。また、移動体通信端末のLCD22の画面が大きい場合は、図4に示すように電話番号33とEメールアドレス34とを同時に表示させることもでき、どちらかを選択可能として相手方に電話をかける、あるいは文字メッセージを送信することができる。

【0018】また、Eメールを作成した後のアドレス入力画面から電話帳が起動された場合は、図5に示すよう

に、Eメールアドレス35が登録された相手先登録部の内容のみをLCD22の画面に次々に表示させて、従来のアドレス帳の利便性を損なわないようにすることができる。図5では、LCD22の画面には、Eメールアドレス35のみが表示されているが、同時に電話番号を表示することもできる。

【0019】さらに、上記実施の形態は電話帳の場合であるが、電話帳に代えてアドレス帳を備えた場合は、該アドレス帳の各送信先登録部にEメールアドレスに加えて電話番号を登録するようにすることができる。

【0020】さらに、アドレス帳の各送信先登録部にEメールアドレスに加えて電話番号を登録した場合で、電話時にアドレス帳が起動された場合には、電話番号が登録された送信先登録部の内容のみを次々LCD22の画面に表示させるようにすることができる。

【0021】さらに、アドレス帳の各送信先登録部にEメールアドレスに加えて電話番号を登録した場合は、アドレス帳の検索時に、各送信先登録部のEメールアドレスと電話番号を1回のキー操作で切り替えてLCD22の画面に表示させることができる。あるいは、LCD22の画面が大きい場合は、各送信先登録部のEメールアドレスと電話番号を同時にLCD22の画面に表示させることもできる。

【0022】

【発明の効果】以上詳細に説明したように本発明の移動体通信端末によれば、電話帳の各相手先登録部に電話番号に加えてEメールアドレスを登録可能としたので、あるいはアドレス帳の各送信先登録部にEメールアドレスに加えて電話番号を登録可能としたので、電話帳とアドレス帳のどちらか一方だけを備えるだけでよく、入力時の煩わしさを解決できる。また、名前データが1つですむので、メモリの節約にもなる。さらに、ユーザは1つの動作で電話番号とEメールアドレスのどちらも知ることができ、より便利である。さらに、ユーザは電話をかける時も、Eメールを送る時も同じ操作で検索し、目的に合った候補を簡単に見つけることができ、一層便利になる。さらに、Eメールを作成した後のアドレス入力画面から電話帳が起動された場合は、Eメールアドレスが登録された相手先登録部の内容のみを表示部に次々に表示させることにより、あるいは、電話時にアドレス帳が起動された場合には、電話番号が登録された送信先登録部の内容のみを次々表示部に表示させることにより、従来のアドレス帳あるいは電話帳の利便性を損なわないようにすることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施の形態における電話帳の登録内容を示す図。

【図2】図1の内容の登録手順を詳細に説明するための図。

【図3】図1の登録内容の表示法を説明するための図。

【図4】図1の登録内容の他の表示法を説明するための図。

【図5】図1の登録内容の電話帳のEメール送信時の検索方法を説明するための図。

【図6】本発明の移動体通信端末の実施の形態を示すブ

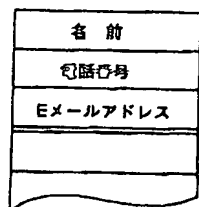
ロック図。

【図7】従来の移動体通信端末における電話帳およびアドレス帳の登録内容を示す図。

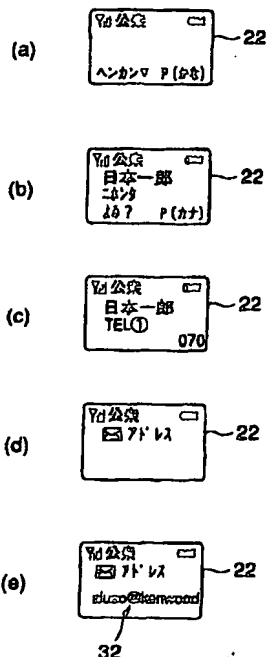
【符号の説明】

31 各相手先登録部

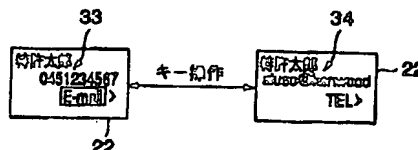
【図1】



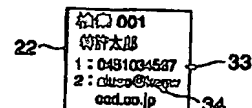
【図2】



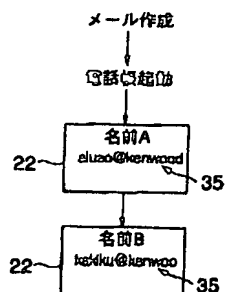
【図3】



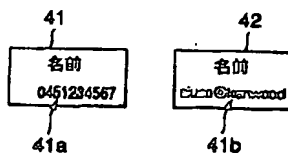
【図4】



【図5】



【図7】



【図6】

